

「情報科学」受講生の意識について

教養部 横田 浩

1. はじめに

「情報科学」の授業では毎年第1回目の授業時に、コンピュータに関するアンケートを行っている（付録1）。また、昨年度（1991年度）からは、最終授業時（または、後期試験時）に第2回目のアンケートを行うようにした（付録2）。第1回目の授業でアンケートを行うようにした理由は受講生が過去において、ワープロやパソコンなどを使用したことがあるかどうかを調査し、授業の進め方や内容の参考にしようというものであった。1988～1990年度については、先に報告した¹⁾。これに加えて、1991年度より、学生の意識を知ることも重要であると考え、コンピュータに対する意識や、受講した理由²⁾、さらに今後も情報関係の授業を受講したいかなどの気持ちもアンケートすることにした。

本稿では、昨年度から調査し始めた受講生の意識に焦点を当てて分析した結果を報告する。ただし、分析のための時間の関係および1年分の結果ということで、中間報告とした。よって今回は学部別・男女別の単純集計にとどめ、クロス集計などの分析は行わない。ここでは、以下の内容について報告する。

- (1) コンピュータに対するイメージ（第1回目・第2回目の[1]）
- (2) 「情報科学」を受講した理由（第1回目の[6]）
- (3) 情報（処理）関連科目について（第2回目の[4]）

詳しい分析をした結果や2～3年分のデータによる年変化などは、後日報告したいと考えている。また、使用したことがあるかどうか等の動向についての先の報告¹⁾のその後については、別に報告する予定である。

付録3に「情報科学」受講後の感想の例を与える。表1にアンケートの回答者数を与え

表1：アンケートの回答者数

(人)		国	文	史	学	地	理	文化財	文学部	社	会	産	社	社会学部	全学部
第1 回目	男	42		62		70		22	196	39		58		97	293
	女	52		42		18		29	141	31		12		43	184
	合計	94		104		88		51	337	70		70		140	477
第2 回目	男	36		52		62		22	177	33		51		84	261
	女	51		40		19		28	138	31		11		42	180
	合計	87		92		81		50	315	64		62		126	441

(注) 第1回目の2年次生以上は18名（男15名、女3名）である。
第2回目の2年次生以上は13名（男10名、女3名）である。

る。受講定員は490名（70名×7クラス）である。2年次生以上は4%以下であるので、学年別の集計・検討は行わない。

2. コンピュータに対するイメージ

まず、受講生が「コンピュータ」というものに、どのようなイメージを抱いているのかについて尋ねた。「情報科学」受講前後の変化を知るために授業開始時と最終授業時（または、後期試験時）に、まったく同じ項目でアンケートした。集計結果を表2 a、bに示す。

表2 a：「コンピュータ」に対するイメージ（2つまで）………第1回目

(%)	文 学 部			社 会 学 部			全 学 部		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
	196	141	337	97	43	140	293	184	477
3. 難しい	44.4	48.9	46.3	42.3	53.5	45.7	43.7	50.0	46.1
18. やってみたい	17.3	36.9	25.5	23.7	41.9	29.3	19.5	38.0	26.6
8. 最先端	18.9	23.4	20.8	23.7	18.6	22.1	20.5	22.3	21.2
2. 便利	19.4	25.5	22.0	19.6	11.6	17.1	19.5	22.3	20.5
17. 役に立つ	18.4	22.7	20.2	24.7	14.0	21.4	20.5	20.7	20.5
4. ゲーム	20.9	0.7	12.5	24.7	2.3	17.9	22.2	1.1	14.0
9. 価格が高い	12.2	5.0	9.2	9.3	9.3	9.3	11.3	6.0	9.2
6. ワープロ	6.1	9.2	7.4	4.1	11.6	6.4	5.5	9.8	7.1
15. まだわからない	6.6	7.8	7.1	8.2	4.7	7.1	7.2	7.1	7.1
1. 好き	8.2	4.3	6.5	8.2	0.0	5.7	8.2	3.3	6.3
12. 計算	6.6	1.4	4.5	3.1	4.7	3.6	5.5	2.2	4.2
13. 融通がきかない	3.6	1.4	2.7	0.0	4.7	1.4	2.4	2.2	2.3
19. 疲労	2.6	0.7	1.8	2.1	7.0	3.6	2.4	2.2	2.3
7. 楽しい	2.0	0.7	1.5	3.1	0.0	2.1	2.4	0.5	1.7
10. 嫌い	2.6	1.4	2.1	0.0	2.3	0.7	1.7	1.6	1.7
5. こわい	1.5	2.1	1.8	0.0	0.0	0.0	1.0	1.6	1.3
16. 集中力	0.5	1.4	0.9	0.0	2.3	0.7	0.3	1.6	0.8
20. 殴りたくなる	0.0	0.7	0.3	0.0	2.3	0.7	0.0	1.1	0.4
21. 1～20にはない	2.6	0.7	1.8	2.1	2.3	2.1	2.4	1.1	1.9

(注1) 11.やさしい、14.役に立たない は回答なし

(注2) 21.の例：グラフィックデザイン、機械の進歩が早い、他科目に対応がきく、仕事のできるやつ、ほしい、ややこしい、目が悪くなる

表2 b：「コンピュータ」に対するイメージ（2つまで）………第2回目

(%)	文 学 部			社 会 学 部			全 学 部		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
	177	138	315	84	42	126	216	180	441
3. 難しい	44.1	62.3	52.1	51.2	61.9	54.8	46.4	62.2	52.8
2. 便利	23.2	21.0	22.2	19.0	21.4	19.8	21.8	21.1	21.5
8. 最先端	15.3	10.9	13.3	13.1	7.1	11.1	14.6	10.0	12.7
9. 価格が高い	17.5	6.5	12.7	7.1	14.3	9.5	14.2	8.3	11.8
15. まだわからない	6.8	11.6	8.9	15.5	23.8	18.3	9.6	14.4	11.6
17. 役に立つ	13.6	10.9	12.4	7.1	11.9	8.7	11.5	11.1	11.3
4. ゲーム	14.7	2.2	9.2	17.9	2.4	12.7	15.7	2.2	10.2
13. 融通がきかない	9.0	10.9	9.8	7.1	4.8	6.3	8.4	9.4	8.8
1. 好き	9.0	3.6	6.7	14.3	9.5	12.7	10.7	5.0	8.4
19. 疲労	5.6	10.1	7.6	11.9	4.8	9.5	7.7	8.9	8.2
18. やってみたい	1.7	9.4	5.1	8.3	23.8	13.4	3.8	12.8	7.5
7. 楽しい	9.0	4.3	7.0	7.1	2.4	5.6	8.4	3.9	6.6
20. 殴りたくなる	6.2	7.2	6.7	6.0	0.0	4.0	6.1	5.6	5.9
6. ワープロ	6.2	4.3	5.4	4.8	4.8	4.8	5.7	4.4	5.2
12. 計算	2.8	5.8	4.1	3.6	7.1	4.8	3.1	6.1	4.3
10. 嫌い	5.1	5.1	5.1	1.2	0.0	0.8	3.8	3.9	3.9
5. こわい	1.7	2.9	2.2	2.4	0.0	1.6	1.9	2.2	2.0
16. 集中力	1.7	2.2	1.9	2.4	0.0	1.6	1.9	1.7	1.8
21. 1～20にはない	1.7	2.9	2.2	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2	1.6

(注1) 11.やさしい、14.役に立たない は回答なし

(注2) 21.の例：、おもしろい、頭がよい、賢いと思う、目がチカチカする、目が悪くなる

すぐに目につくのは、「難しい」が、他を引き離して圧倒的に多いということである(4~5割)。しかも、受講後には6.7ポイントも増えて、半数を超えた³⁾。受講後の感想からいって当然の結果といえるだろう(付録3を参照のこと)。

「やってみたい」と全体の4人に1人が思っている。社会学部の方が高く、さらにどちらの学部も女子の方が高くなっている。社会学部の方が高いのは理解しやすい。女子の方が高いのは、単に男子の方が使用したことがある者が多く、女子が少ないということによるのか、それとも、女子の方が関心が高いということを示しているのであろうか。また、2回目でも7.5% (13人に1人) おり、特に社会学部の4人に1人がそう思っているのは不思議である。「やってみたい」の中身がわからないので、なんともいえないが、「さらに、先まで」ということなのか、授業内容が彼らが考えているような「やってみたい」内容とは異なっているということなのであろうか。今後、詳しく検討したい。

「まだわからない」も、同じようなものかもしれない。7.1% (14人に1人) から11.6% (9人に1人) に増えている。もちろん、1年間やっただけで、すべてが分かるはずはないが、いわゆる「実感」としてのイメージと授業内容が一致していないための感想かも知れない。これも、今後詳しく検討したい。

「最先端」、「便利」、「役に立つ」といういわゆる「プラスイメージ」と思われるものが3~5番目で、ほとんど5人に1人が思っている。これは、ほかの回答とは異なり、文学部では女子の方が多く、社会学部では男子の方が高くなっている。2回目のアンケートでは、このような差はほとんどなくなっている。1回目はイメージで、2回目は使用してみた後の「実感」というところの変化であろうか。

男女差が最も目立つのは、「ゲーム」である。男子が22.0%、15.7%なのに対して、女子は1.1%、2.2%とほとんどいないといってもよいほど少ない。これは、ファミコンなどをするのが、男子に多いということからも、もっともな結果であろう。逆に、「ワープロ」は、女子の方が多いのではあるが、2回目では男子の方が多くなる。男子は、あまりワープロを使用したことがなかったが、授業で簡単ではあるが使用したことがこのような結果になっているのであろう。また、女子は別の「難しい」とかのイメージの方が強くなった結果であるとも思われる。(実際、「難しい」は男子が2.7ポイントの増加なのに対して、女子は12.2ポイントも増加している。)

1回目と2回目で最も増加比が高いのは、「殴りたくなる」である。すなわち、0.4%から5.9%と約15倍になっている。次が、「融通がきかない」である。これは、(特に後期の)授業内容のためであると考えられる。前年度までの学生の感想文(1991年度からは、アンケートの項目に入れたが、それまでは後期の課題と一緒に感想文を提出させたりしていた。)の中に、「殴りたくなる」とか、「融通がきかない」などがあったので、あえて項目の中に入れておいたものである。従って、このような結果は予想していたものである。後期の実

習課題を真剣にまじめに取り組んだ学生ほど（アンケートでこの項目を選ぶかどうかは別にしても）、このような感想を持つのではないかと考えられる。

その他は、まあ、こんなものかというような結果である。ただ、「計算」というイメージが、思ったより少ないと考えられるが、もはや「コンピュータ＝計算（機）」と考えられていた時代は終わったということの意味しているのかもしれない。

3. 「情報科学」を受講した理由

さらに、受講生が本授業「情報科学」を受講した理由について質問した²⁾。学部別、男女別の理由についての集計を表3に与える。

表3：「情報科学」を受講した理由（3つまで）

(%)	文 学 部			社 会 学 部			全 学 部		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
	195	141	336	97	43	140	292	184	476
4. 現代社会では必要	68.2	72.3	69.9	75.3	65.1	72.1	70.5	70.7	70.6
3. 就職に役立つ	53.8	60.3	56.5	64.9	69.8	66.4	57.5	62.5	59.5
1. 興味があった	60.5	45.4	54.2	52.6	65.1	56.4	57.9	50.0	54.8
5. 新しい科目である	18.5	22.7	20.2	21.6	20.9	21.4	19.5	22.3	20.8
2. 専門(学科)に役立つ	14.9	9.9	12.8	27.8	37.2	30.7	19.2	16.3	18.1
8. 他に科目がなかった	19.0	21.3	19.9	7.2	2.3	5.7	15.1	16.8	15.8
7. 学生便覧を読んで	4.1	2.8	3.6	4.1	2.3	3.6	4.1	2.7	3.6
6. 先輩にすすめられて	3.6	4.3	3.9	2.1	2.3	2.1	3.1	3.8	3.4
10. 時間割の都合	5.6	2.1	4.2	1.0	2.3	1.4	4.1	2.2	3.4
9. 単位がとりやすい	0.5	0.7	0.6	1.0	0.0	0.7	0.7	0.5	0.6
11. その他	2.6	3.5	3.0	1.0	0.0	0.7	2.1	2.7	2.3

(注) 11. その他の例：資格をとりたい。
 全くコンピュータを使えないと不便だから。
 せっかく設備のある学校に入ったのだからやりやなきや損だと思った。
 余り詳しいことがわからないので学校で教われればいいなと思った。
 知人が情報工学科に行っているのと同じ話をしたいから。
 家にあるパソコンがほこりをかぶっているだけなので使えるようになりたい。 等

まず、全体の傾向をみると、「現代社会では必要」・「就職に役立つ」・「興味がある」が50%以上で他を引き離して多い。あとは、「専門に役立つ」・「高校にない新しい科目である」が18%～20%になっている。このあとに、16%で「他にとりたい（自然科学の)科目がない」⁴⁾がつづく。これ以外は、非常に少ない。

受講理由では学部の違いがはっきりでている。上位4つはそれほどの差はみられないが、「専門に役立つ」、「他に科目がなかった」についてははっきりしている。すなわち、社会学部で「専門に役立つ」と考えている者は3割（特に女子は4割近い）いるのに対して、文学部では1割強（女子は1割に満たない）である。一方、「他に科目がなかった」は、文学部では2割（5人に1人）近くなのに対して、社会学部では6%に満たない（17人に1人）。受

講理由については、男女差より学部間の差の方が顕著であるのは興味深い。

以上の結果から、また、「学生便覧をみて」・「先輩にすすめられて」が少ないということからみて、どちらかという具体的な授業内容よりはイメージによって受講するかどうかを決めている学生が多いのではないかと考えられる。

4. 情報（処理）関連科目について

「情報科学」を受講した後でのアンケートで、情報（処理）関連科目を今後も受講したいかどうか等について質問した。³⁾ここでは、以下の3つの項目について尋ねた。

- 1) 今後も、情報（処理）関連の科目を受講したいか。
- 2) もし、上級の科目（「情報科学」のアドバンスコース）があれば、さらに受講したいか。
- 3) 情報（処理）関連あるいはコンピュータに関する授業を増やすことをどう思うか。

表4に学部別、男女別の集計を示す。⁵⁾

表4：情報（処理）関連科目について

(%)	文学部			社会学部			全学部		
	男 177	女 138	合計 315	男 84	女 42	合計 126	男 261	女 180	合計 441
質問4-1									
1. はい	40.1	24.6	33.3	46.4	47.6	46.8	42.1	30.0	37.2
2. いいえ	22.6	29.7	25.7	17.9	14.3	16.7	21.1	26.1	23.1
3. どちらともいえない	37.3	45.7	41.0	35.7	38.1	36.5	36.8	43.9	39.7
質問4-2									
1. はい	33.3	12.3	24.1	31.0	23.8	28.6	32.6	15.0	25.4
2. いいえ	33.3	55.8	43.2	34.5	31.0	33.3	33.7	50.0	40.4
3. どちらともいえない	33.3	31.9	32.7	34.5	45.2	38.1	33.7	35.0	34.2
質問4-3									
1. もっと増やすべき	42.9	26.1	35.6	47.6	40.5	45.2	44.4	29.4	38.3
2. いまままでよい	36.2	46.4	40.6	33.3	33.3	33.3	35.2	43.3	38.5
3. 減らすべきである	2.3	1.4	1.9	2.4	2.4	2.4	2.3	1.7	2.0
4. どちらでもよい	18.6	26.1	21.9	16.7	23.8	19.0	18.0	25.6	21.2

4. 1 情報関連の科目をさらに受講したいか

まず、次年度以降も、情報関連の科目を受講したいかどうかを尋ねた。社会学部には（専門科目として）情報科目があるが、文学部には、地理学科を除いては開講されていない。ここでは、開講されているものとして気持ちを尋ねた。

その結果、社会学部では2人に1人、文学部でも3人に1人（男子は5人に2人、女子が4人に1人）となっていて、潜在的には需要が多いものと思われる。「どちらともいえない」が、全体としては「はい」よりやや多い。これらの学生が受講するかどうかは、授業内容次第

といえるだろう。

4. 2 「情報科学」のアドバイスコースを受講したいか

次に、もし「情報科学」の上級コースとしての、アドバイスコースが開講されたとしたら受講してみたいかどうかを尋ねた。全体としては、4人に1人（実数としては100名程度）が受講したいと答えている。儀礼的回答もあると思われるが、さらに、続けて学習したいと思っている学生も多いと考えたい。

「いいえ」は、文学部の女子が5割以上であるが、ほかは3割強であり、全体で4割という結果になっている。これは、授業特に後期の実習と課題で苦労したことによる実感としての回答であると思われる（付録3参照）。内容からみて、予想外とはいえない。

「どちらともいえない」が3人に1人あることは、「はい」と合わせて、アドバイスコースを開講するときの内容と受講者数（の制限）を検討するときの参考になるであろう。

4. 3 情報科目を増やすことについて

最後に、一般論として情報（処理）関連の科目の開講数について尋ねた。その結果、4割弱が「もっと増やすべきである」と答え、また同数の学生が「今のままでよい」と答えている。この2つで8割近くを占める。逆に、「減らすべきである」と答えた学生は2%（50人に1人）にすぎない。このことは、もっと授業数を増やすか、少なくとも現状を維持すべきであると考えていることを示している。「高度情報化社会」といわれる現代社会に敏感になっているものと考えられる。今後の情報教育のあり方を検討していく上では無視できない結果ではないだろうか。

4-3の「もっと増やすべき」と4-1の「はい」が、ほぼ同数であるということは、受講に対して積極的な学生ほど増やすべきだと思っているものと思われる。⁶⁾

5. おわりに

以上、「情報科学」受講生のコンピュータや「情報科学」等の情報科目に対するイメージや意識に関する調査の大きな分析結果を報告した。コンピュータを使用したことが有るかかどうかということは、学部間の差より男女間の差が大きく⁷⁾だが、意識の上では、男女間とも学部間とも差が見られる。つまり、どのような使用をしたかということと、意識は直接関係がないと思われる。現在の専門学部の状況が意識に大きな影響を与えると考えられる。今後は、今回の結果をもとに各種のクロス集計を行って、詳しい分析を行いたい。

付録3に授業や課題の感想の例（第2回目の[5]）を示したが、これらや授業に対するイメージ（第1回目の[7]）などを授業内容・形態などにどのように生かしていくかの検

討はこれからの課題である。

謝辞

情報科学（一）～（四）担当分のアンケートを実施して頂いた湊敏助教授、およびアンケートのデータのコーディングならびに入力を手伝って頂いた本学学生（1991年度）の平嶋祐子（文・史4）・池辺暢昭（社・産社1）・岡本光和（社・産社1）の各氏に感謝致します。

本稿の集計には本学情報処理センターのACOS430/70での統計処理システムSPSS-Xを使用した。

注および参考文献

- 1) 横田：“「情報科学」受講生の受講前のコンピュータの使用経験について”、奈良大学紀要第19号、pp.29-38、1991年3月。
- 2) 受講理由については、1990年度のアンケートでも尋ねたが、自由回答であったので、ここでは検討の対象にはしない。文献1)のp.33の註6)を参照のこと。
- 3) 当然、「情報科学」の授業内容によって、受講後の意識が異なるであろう。アンケートは昨年度（1991年度）のものであるが、授業内容は実質的に毎年同じである。本年度授業開始日に学生に配布した授業予定については、横田：“情報科学講座を4年間担当して”、King of Kings、No.2、pp.96-99、1992年8月の参考資料を参照のこと。なお、湊助教授の授業も本筋においては、筆者の内容と変わらない。**付録3**（授業や課題の感想）も参照のこと。
- 4) 他の自然科学の科目で受講したい（または、した）科目の比率は以下の通りである。

	文学部	社会学部	全学部		
			男	女	合計
(%)	331	134	284	181	465
5. 地学	78.5	61.2	70.8	77.9	73.5
1. 生物学	47.7	64.2	54.9	48.6	52.5
2. 化学	7.3	11.2	10.2	5.5	8.4
4. 数学	2.7	18.7	9.9	3.3	7.3
6. 実験自然科学	2.4	8.2	5.6	1.7	4.1
3. 物理学	0.6	0.7	0.4	1.1	0.6

(注) 物理学は1991年度は開講されていない

- 5) より詳しくみると、最終授業の時と試験の時の回答では少し差異がみられる。すなわち、最終授業時での回答の方が試験時での回答より「はい」という回答の割合が全体的に若干少ない。これは、最終授業の時は、まだ実習課題が終わっていない学生も多く、さらに実技試験・後期試験があるということで良い印象が少なく、試験時ではこれが最後であるので、ほっとした時の感想であると考えるところも少なくない。ただし、これは筆者に良いように解釈した場合で、最終授業時に行ったのが筆者で、湊助教授が試験時に行っているのも、授業担当者の差であるとも考えられる。
- 6) これには、クロス集計が必要であるので今回の分析外であるが、4-1と4-3のクロス集計をみると、どちらも「はい」が71.3%と推論を裏付ける結果となっている。
- 7) 本稿の対象外であるが1991年度分においても、使用の有無やその所有については、学部差が少なく、男女差が顕著という文献1)と同じ傾向が見られる。

付録1. コンピュータに関するアンケート（第1回目）

[0] あなたの学部学科は？

1. 国文 2. 史学 3. 地理 4. 文化財

5. 社会 6. 産業社会

あなたの性別は？

1. 男 2. 女

あなたの学年は？

1. 1年次生 2. 2年次生 3. 3年次生

4. 4年次生以上

[1] コンピュータに対するイメージを次の中から選ぶとしたら、どれを選びますか？

(1つ又は2つ)

1. 好き 2. 便利 3. 難しい 4. ゲーム 5. こわい
 6. ワープロ 7. 楽しい 8. 最先端 9. 価格が高い 10. 嫌い
 11. やさしい 12. 計算 13. 融通がきかない 14. 役立たない 15. まだわからない
 16. 集中力 17. 役に立つ 18. やってみたい 19. 疲労 20. 殴りたくなる
 21. 1~20にはない（自分で書いて下さい： ）

- [2] 以下の操作をしたことがありますか？ ある…1 ない…2 (左の欄)
 さらに、これらの操作は、「自分でコンピュータを使用しているのだ」という
 気になりますか (操作したことがなくても答えて下さい)？ (右の欄)
 なる…1 ならない…2 どちらともいえない…3 わからない…4

- (a) 銀行または郵便局等でのカードによる自動預け入れ・払い戻し
 (b) ビデオ等のオーディオのタイマー予約など
 又は、炊飯器・全自動洗濯機等のタイマー予約など
 (c) ファクシミリでの送信
 (d) コピー機の (多機能) スイッチ
 (e) 電卓

(a)		
(b)		
(c)		
(d)		
(e)		

- [3] 今までに、コンピュータ (パソコン・ワープロ・ファミコン等) を使用したこ
 がありますか？ ある…1 ない…2

- (1) 使用したことがない場合、家にありますか？

家にはある (家族は使用している) …1 家にはない…2

・ 1 のとき、もしよければ、あなたが使用しない理由を書いて下さい。

(理由:)

- (2) 使用したことがある・現在使用している。

この場合、次の何を使用しましたか？また、それは誰の所有ですか？

すべてを記して下さい。該当なしは空白のまま。

- (a) ファミコン・スーパーファミコン
 (b) ワープロ (ワード・プロセッサ) 専用機
 (c) パソコン (パーソナルコンピュータ)

(a)	
(b)	
(c)	

所有についての選択肢

1. 自分のもの (専用) 2. 家族のもの
 3. 友人のもの (親戚を含む) 4. その他 (学校・講習会等)

- [4] ここは、パソコンを使用したことがある人 ([3] で (2) (c) をチェックした人) の
 み答えて下さい。該当しない人は、次の [5] へ進んで下さい。

パソコンをどのように使用しましたか・現在していますか？すべて、記入して下
 さい。また、その所有についても [3] に準じて記して下さい。該当なしは空白のま
 ま。

- (a) パソコンでのゲーム
- (b) パソコンでのワープロ
- (c) プログラムを作成、または修正
その言語は？ ()
- (d) プログラムやデータの入力のみ (例えば、マイコン関係
の雑誌に掲載のゲームのプログラムを入力など)
- (e) その他 (具体的に:)

(a)	
(b)	
(c)	
(d)	
(e)	

例：友人のパソコンでゲームをした → (a) の欄に3と記入

- [5] 現在、コンピュータを持っていない人に質問します。
将来、コンピュータを買いたいと思いますか？ワープロとパソコンにわけて答えて下さい。

1. できるだけ早く買いたい
2. お金の準備ができれば買いたい
3. コンピュータ関係の授業を受けてから考える
4. 今のところ、買う気は全くない
5. その他 ()

ワープロ	
パソコン	

- [6] 「情報科学」を受講した理由は何ですか？ (3つまで)

1. コンピュータに興味があったから
2. 自分の専門 (学科) に役に立つと思うから
3. 就職に役に立つと思うから
4. 現代社会では、必要なことだと思うから
5. 高校までには無い新しい科目であるから
6. 先輩に勧められて
7. 学生便覧での講義内容を読んで
8. 自然科学で他に取る (とりたい) 科目が無かったから
9. 単位がとりやすいと思うから
10. 時間割の都合でその時限だけ空いたので
11. その他 (具体的に:)

他に受講したい (する予定の) 自然科学の科目名を (すべて) 教えて下さい。

1. 生物学 2. 化学 3. 物理学 4. 数学 5. 地学 6. 実験自然科学

--

- [7] 「情報科学」は、どのような授業内容だと思いますか？
学生便覧や先輩の話は無視してあなたの率直な意見を書いて下さい。
(書ききれないときは、裏に書いて下さい)

ご協力ありがとうございました

なお、この第1回目のアンケートは、奈良教育大学で開講されている「教育情報論」の受講生に対しても、まったく同じ項目（ただし、学部・学科と科目名を奈良教育大学用に変更し、他に受講したい自然科学科目の部分は削除した。）で、山邊信一教授に実施して頂いた。が、今回の中間報告では検討の対象にはしない。次回の報告では本学の学生との比較も行いたい。アンケートを実施して頂いた山邊教授に感謝致します。

付録2. コンピュータに関するアンケート（第2回目）

[0] ～ [2] の項目は第1回目と全く同じなので省略する。

- [3] コンピュータの購入についてお聞きします。
コンピュータを買いたいと思いますか？ ワープロとパソコンにわけて答えて下さい。
1. 受講前から持っている
 2. 受講中に購入した
 3. 現在、具体的に購入の機種等を検討している
 4. そう遠くない将来購入したい気持ちはある
 5. 今のところ、全く買う気はない
 6. その他 ()
- | | |
|------|--|
| ワープロ | |
| パソコン | |

- [4] 情報（処理）教育に対する希望をお尋ねします。
(開講されているかどうかに関係なく気持ちを答えて下さい)

4-1 今後も、情報（処理）関連の科目をとりたいと思いますか。

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない

4-2 より上級の科目があれば、さらに受講してみたいですか。

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない

(より上級とは、本「情報科学」のアドバンスコースという意味です。)

4-3 情報（処理）あるいはコンピュータに関する授業を増やすことについて、どう思いますか。

1. もっと増やすべきである
2. いまのままでよい
3. 減らすべきである
4. どちらでもよい

[5] 「情報科学」を受講した感想を書いてください。

(1) 全体について

(2) 後期課題について

ご協力ありがとうございました

付録 3. 「情報科学」受講後の感想

第2回目のアンケートの [5] よりの抜粋を以下に示す。ここでは、これらの感想の分析はせず羅列した。分類は大まかに分けたものであり、相互に関連しているものもある。

全体的な感想

「最初にイメージしていたよりも、大変難しくて、授業を聞いていても、わからないことばかりだった。」

「難しかった。」

「自分が受講した授業の中で一番大変だった。」

これらが、最も一般的な感想であるようだ。また、前期と後期の質の差についての感想が多かった。例えば、(2通りの評価があるように思える)

「最初はおもしろ半分で行っていてもよかったけど、だんだん難しくなってきた、最後の方はしんどかった。」

「前期の授業はともかく、後期の作業におわれてじっくりと先生の話を理解する時間がなかった。」

「前期のワープロについてはそう苦もなく実行できたが、後期のコンピュータを使っているという感覚が強かったし難しくて苦労も多く情報科学を受講したことを後悔したこともある。」

「前期は講義が多くてあまりおもしろくなかった。後期はずっと実習で毎週授業を受けてるのが楽しみだった。」

「前期はほとんどテキストによる授業でありあまりおもしろみがなかったが、後期はじかにコンピュータにふれて授業したので楽しい授業になった。」

他に、

「コンピュータに接することができるいい授業だと思います。今の社会でワープロなどがあるので受講してよかったです。これからも、もっと勉強したいと思っています。」

「最後の方になって楽しくなってきた。まだ、始めたばかりで、やめてしまうことがおもしろい感じがする。」

「やっぱり、講義より実習の方が充実した感じがしました。」

「実習が多かった。で、退屈しないで興味をもって講義を受けることができた。」

「しんどいけどやりがいがあった。全受講科目のうちで一番がんばったと思う。」

「週に1回なのでなれるのが大変だった。」

「講義よりも実習の方が楽しい。」

「授業についてはワープロのわからないことがわかる楽しさがあった。しかし、ちょっとキーを押しまちがえたりして画面がおかしくなった時とかは、もしかしてコンピュータがこわれたかと思って不安になった。」

「コンピュータは難しいというのがわかっただけでも、これを受講したかいがあると思う。もっとたくさんの人に情報科学の講義をとれるようにすればいいと思う。」

内容その他に対する要望と思われるもの

授業形態や内容については、「実習時間が多くてよかった。」という意見もあるが、一般的には

「実習時間が少なすぎると思います。」

「もう少し実習時間があればよいと思う。」

などが多い。また、人数やペースについても

「個人的についてほしい。人数が多すぎるため授業がよくわからない。もっとゆっくりていねいにおしえてほしい。」

「人数が多すぎる。」

「40人ぐらいにすべき。」

「もっとゆっくり説明してほしかった。」

「授業のペースが早い。」

「一週間に1時間30分でこれだけことをやろうというのは少しつらいですね。」

「週に一回だけの授業ではなかなか理解できなかった。」

などの感想も多かった。他に

「FORTRANではなくBASICにしてほしい。」(数名)

「一般教育だから仕方がないが、こういうのは一貫してすべきである。」

「実際にコンピュータを操作してから説明があった方が分かりやすかったのではないかなと思う。」

「不親切だと思う。いくら話をきいていてもわからないことはあるものだ。本当のビギナーの立場に立って教えてもらえばより良くなることであろう。」

「先生に個別に解説を頼んでも、先生自信が他の受講生の対応に忙しくなかなかこちらの質問に応じてくれない。アドバンスコースを作るよりも少人数にして授業を増やしてきめ細かい対応をしてもらいたい。」

「後期は課題があるので利用者が増えるのは当たり前であるので、利用時間の延長等の対策を講じる必要があるのでは、と思う。」

教員について触れているもの

中には具体的に教員名(湊・横田)を書いてあるものもあるが、ここではすべて「先生」とした。

「授業は後期になってからチンプンカンプンだったので席に先生が近づいてくると恐かった。」

「最初は全然わからないし、難しいし、この科目を取ったのはよくなかったと思ったけど、後期なんとか課題ができて、ものすごくうれしかったし、人の倍ぐらい時間がかかっても、これから少しずつでも続けていこうかなと思えるようになりました。授業中、先生がこわかったですが、自分一人でやっている時はすごく親切だったので、本当はやさしいのかもしれないと思った。」

「先生に何か質問すると50%はたいてい『先生おこってるんですか?』と思わず聞きたくなってしまいます。でも、あんなに苦しんだのに2回生になってももう一度勉強したいと思うのはなぜだろう。」

「たまに訳がわからなくなった時もしばしば…。でも、まあ、先生の教え方はよかったと思います。ただ、もう少しわからない時には教えてください。」

「説明よりも実技をしながらの方が楽しかったが、分からなくて、先生に質問すると

『この前やったでしょう』といわれるのでどきどきした。』

後期課題についての感想

「難しかった」・「難しすぎた」

が大部分である。他に、

「大変だったの一言に尽きると思う。先生が学校に来ない日に課題をやったのは失敗だった。」

「課題で苦しめられるのは御免である。全く手間のかかることをさせてもらったという感じである。」

「冬休みはこれでつぶされたようなものだった。」

「多くの友の友情を感じた。」

「授業の復習になってよかったと思う。一年間の最後にやりがいのあることができ苦労したかいがあったなあと思います。」

「結構悩んだ。わからなくてわからなくて気が立ってこわしたくもなった。でも、デリバリイで出てきたのを見るとなんか感動してうれしくなった。」

「一応自分で考えたのに、肝心なところはほとんど先生に教えてもらってしまったけど、達成感があった。難しかったです。」

「課題をやりセンターに行ったときに、いろいろ悩んだけれど、ある程度分かってくるとパズルのようにおもしろかった。センターで先生の笑い声をきいて、ほっとした。」

「これも難しかった。プログラムの穴埋め…泣きたい程わからなかった。けれど、自分で操作して紙に出力されたのを見て、とても嬉しかった。頑張った甲斐があったと思えた。」

「人が比較的少ない時にやりに行ったので、やり易かったし、事前に自分で考えてきて、ほとんど間違っていたけど、先生にいろいろ教えて頂いて、なんとなくわかったような気がする。」

「ほとんど一日中課題に取り組んだ日もあったが、この課題を自分でしたおかげでずいぶんコンピュータの扱い方が分かるようになった。」

「期間が十分あると思って気楽にやっていたが思った以上に難しかったので驚きました。」

「とても難しく、教科書、ノート、昔のコーディングシートなど、全て出してきた、あーでもない、こーでもない、てんやわんやでした。今日、提出しますが、終わったときは叫びたくなくなるくらいうれしかったです。」

「最初、本当にわからなくて、どうなることかと思いましたが、やっているうちに少しずつ理解ができてきたのではと思います、パソコンにうちこむのも、すごく大変でしたができたときは満足感でいっぱいでした。」

「簡単だと思わせておいて、実際は難しい、とても上手な課題で、コンピュータにいの

る日々がつづいた。おわってみればいい思い出。2度とやりたくないという気持ちと
もっとやりたいという気持ちが半分ずつあります。」

「穴埋めになっていて助かった。全部つくれといわれたら相当にきつかったと思う。」

「授業をうけてても理解できなかったが、実際やってみるとわかった所が多かった。最
後にやっと情報やってるなーって思えた。」

「理解するまでは全然わからなかった。1つ1つ講義でやったところを見直してはじめて
わかった。理解すると『なんだ』と思うけど、そうなるまでが難しかった。」

「課題を見たとたんこまった。今までに習った中にこたえがあるのにできないのがなさ
けなかった。」